



今、生き生きと 55 会社員 今井 太郎 (いまい たろう) さん

ロードバイクの楽しさに魅入られ、すっかりはまってしまっただよう。昨年は夏合宿に来町した塩野絵美選手(東京ヴェルディ)と一緒に1日150キロものロードトレーニングをこなし、気がつけば、昨年の「ツール・ド・北海道」に初出場してロードレース初優勝。今は大会が近づくと、通勤の時にトレーニングを兼ねて忠別ダムを一周し、約1時間をかけて通勤するなど、まさに「バイクオタク」ぶりを遺憾なく発揮しています。

毎日の通勤は、雨の日も吹雪の日も自転車。旭川市内の勤務先との間約12キロメートルを約15分間(夏期の上り)で帰宅するスピードの速さです。

「自転車を買ってからというものの、車で通勤して帰るのがもったいない、というか嫌になってしまった。車にあまり興味がなかったということもあって、車検切れのまま放っておい

たんです。そのまま秋になって…。昨冬は自転車のタイヤをスパイクタイヤに履き替えて冬の間も自転車通勤を続け、氷点下の豪雪でもバス通勤しなかったそうです。

自転車を買った自転車店のチーム「ポビッシュ」(旭川)に所属、仲間約20人が集まって「旭岳ヒルクライム記録会」というタイムトライアルにも出場するようになりました。

そこで目標に立てたのが年間10回程度の道内ロードバイク大会出場とツール・ド・北海道への出場。今シーズンは5月13日、長沼町水郷公園で行われた第31回道新杯自転車ロードレース(札幌自転車競技連盟主催)が幕開けになりました。

◇ 「じつとしていられない。何かあ



▲職場のリサイクルショップで(旭川市東光)

るとすぐスクワット運動をしてしまう」といいます。

「子供の参観日に小学校に行つて、ダンベルのようなものを見つけるとすぐやってみたり…。妻からは『じつとしていて!』と怒られてしまうんです」。どうやら生来運動能力が抜群で「運動オタク」(?)のよう。18歳から始めたスノーボードは、負傷さえなければ冬季オリンピックの日本代表選手でした。

長野大会では、太郎さんに代わつて弟孝雅さん(35)札幌在住が出演。孝雅さんはその後プロボウダーとしてスノーボードのコーチングをしているそうです。

今井 太郎さん/26区

旭川市出身、37歳。北海道情報処理専門学校卒業(現北海道環境福祉専門学校)。スノーボード(ハーフパイプ)で長野オリンピック日本代表選手候補(1996~1997年シーズン)。海外遠征中に左じん帯断裂のため23歳で現役選手を断念。リハビリを兼ねて始めた自転車で頭角を表し、昨年の「ツール・ド・北海道2011」市民レース第2ラウンドのロードレースに初出場で初優勝(S4クラス)。1つ上のS3クラス優勝タイムにわずか20秒あまりに迫る1時間41分01秒(平均時速39.19km/h)を記録しました。今年はS3クラスに上がって出場予定、連続優勝を狙います。今年の「ツール・ド・北海道2012」は、9月14~17日開催予定、市民レース第2ステージは「東川町(役場前)・美瑛町(丸山公園)」=87kmがコース。



「何でも鉄を溶接して作ってくれた親父の背中を見て育ったせいか、古いものを直したりすることが結構得意なんです。骨董(こつとう)品や古いおもちゃが昔から好きだった」と選んだ勤め先は旭川市内のリサイクルショップ。道具や古い物の多少の不具合は何でも直してしまいます。



▲旭岳を制覇する「チーム・ポビッシュ」ヒルクライム記録会に出場(5月20日)